授業動画撮影・編集のポイント

〇本校での実践を通して積み上げたもの

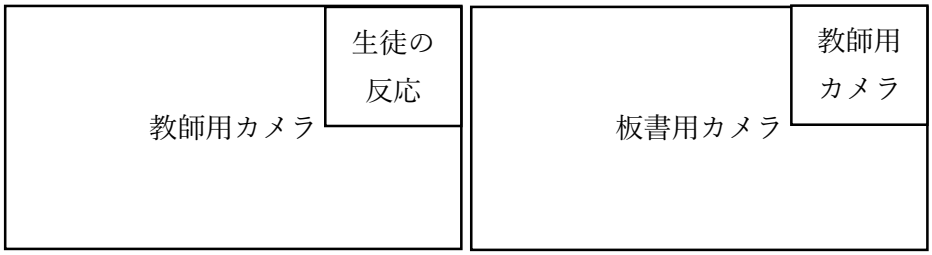
・目的によって、撮影ポイントを決める。
　例：オープンスクール＝生徒が躍動する姿
　　授業＝生徒が話し合う姿、教師の発問のポイント
　→カメラの視点を明確にして撮影する。

・カメラワーク
　生徒が記述しているシーンは、生徒のアップで撮影。
　何人か生徒を絞って、その生徒たちの学習活動をアップめで撮影する。
　全体風景も撮っておく。

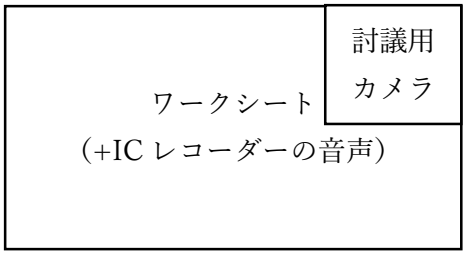
・編集
　場面区切りを細かくする。１つの場面が 10 秒以上だと長く感じる。テンポよく。
　一つのシーンを漠然と撮影しない。とくに教師の説明は編集。
　指導案や板書写真を見てわかる部分は省く。
　見えづらいもの（ワークシート、ホワイトボード）などの写真をワイプで提示する。
　学習活動の位置づけ（導入等）を画面に示す。
　YouTube で動画制作について説明した動画をチェックする。
　参観に来ている人の目線になるように編集する。

〇山梨大学・田中健史朗准教授（本校全体研究共同研究者）からのアドバイス

・授業全体
　教師用カメラ（教師の前に置いて教師のみ撮影します），板書用カメラ（板書の様子のみ撮影します），生徒の反応用カメラ（教壇側から生徒たちの反応のみを撮影します）。これらをワイプ画面を用いて組み合わせることで，教師が話しているときは，教師カメラを主として，ワイプに生徒の反応用カメラを使用する。板書しているときは，板書用カメラを主として，教師用カメラをワイプに表示させる。などと編集するかなと思います。



・生徒同士のグループ討議
　生徒のグループ討議用カメラ，グループ討議用 IC レコーダー，ワークシートのデータ（後でスキャンする）。



・IC レコーダーで音声をとるとき
「IC レコーダーのとり始め」と当該グループの映像を撮影する「カメラのとり始め」は合せた方が後で合成しやすい。生徒が IC レコーダーを ON にすると同時に、カメラの撮影も開始する。

・IC レコーダーを使わず、カメラのみで音声もとるとき
カメラを生徒のかなり近くにもっていかないと生徒の声を拾うことは難しい。